

病害虫発生予察特殊報第 2 号

病 名：リンドウ黒斑病

病原菌名：*Alternaria alternata*

1 発生経過

平成 17 年頃から、東北信地域のりんどう産地において、夏秋期に、葉に輪紋状斑点を形成し、後に葉枯れを伴う被害が発生していた。平成 18 年及び 19 年に野菜花き試験場で原因究明を行ったところ、*Alternaria alternata* による「リンドウ黒斑病」であることが判明した。

本病は、平成 12 年に岩手県において、りんどうに斑点や茎枯れ被害が発生し、平成 14 年に *Alternaria* 属菌による病害であることが明らかにされた、新病害である。

本病は、長野県においては初確認である。

2 病徴及び発生生態

病原菌は罹病残渣等で腐生的に生存する。これが第一次伝染源となり、病斑上に形成された分生子が風雨や雨滴により飛散し、葉の傷から感染する。

はじめ、葉の中央や縁に直径 3～5 mm 程度の輪紋状の病斑が形成され、その後拡大し、葉基部から茎に病斑が進展し、茎枯れを起し、最終的には採花部が枯死に至る。

3 防除対策

- (1) 発病適温は 20～25℃で、8 月から 9 月にかけて発生が増加するので、本病に効果のある薬剤を用いた予防散布を心がける（表 1 参照）。
- (2) 薬剤の使用に当たっては、小規模で薬害や汚れ等を確認してから使用する。
- (3) *Thallosporiella* 属菌による褐斑病、*Septoria* 属菌による葉枯病、*Rhizoctonia* 属菌による葉腐病と類似するが、発生生態、防除薬剤等が異なるので、本病が疑われる場合には農業改良普及センター、病害虫防除所等に相談し、診断に基づいた防除を実施する。

表 1 リンドウ黒斑病に登録のある薬剤(平成 19 年 11 月 1 日現在)

薬 剤 名	適用作物	希釈倍率	使用量	使用回数
ストロビーフロアブル	りんどう	2,000 倍	100～400L/10a	3回以内
フルピカフロアブル	りんどう	2,000 倍	200～700L/10a	5回以内

注)ポリオキシ AL 水溶剤「科研」(科研製薬株式会社製)も「花き類・観葉植物」の「黒斑病」に対して登録があるが、リンドウ黒斑病に対する効果は未確認のため、表から除いた。

参考 ポリオキシ AL 水溶剤「科研」の黒斑病に対する登録内容(平成 19 年 11 月 1 日現在)

薬 剤 名	適用作物	希釈倍率	使用量	使用回数
ポリオキシ AL 水溶剤「科研」	花き類・観葉植物	2,500 倍	—	5回以内

